

JAM岐阜シニアクラブ第17回総会開催 現役と連携し組織の拡大を見つめ直そう

通信員 傍島征夫

10月14日（日）、第17回定期総会をワークプラザ岐阜において、来賓と会員含め45名が出席して開催した。

主催者を代表して北村務会長は「JAMシニアクラブ創立当初の基本理念である高齢者の自立・相互扶助・社会貢献・政策制度の取り組みを通じた社会保障制度の見直し、自由と民主的な活動を目指しJAM岐阜シニアクラブ（385名）はJAM東海や退職者連合と連携した活動を継続していく」と挨拶した。

来賓を代表してJAMシニアクラブ大山勝也会長は「衆議院解散総選挙が間近に迫る中、今回の選挙は安倍政治に終止符を打つ国政選挙で政治の流れを変えようではありませんか、それには、現役とシニアクラブが連携した協力をお願いしたい」と強く述べられた。

報告事項は2017年度事業と決算・会計監査報告が承認された。

議案では①政策・制度要求は雇用と生活を守るためにJAMとして何をするかを議論し行動することが大切。それには現役とシニアが連携し議論を行う。②組織拡大では昨年大幅な減員となったことから、組織を改めて再点検し弱点の洗い出しと会員の意見を掘り起こす。③教宣活動は「すこやか号」の一層の充実を図り発信に努力する。④ボウリング・ウォーキング・研修会・グランドゴルフなど一人でも多く参加できる交流会を企画する等の運動方針（案）を審議し原案通り承認された。

総会後会場を移動して懇親会を開催。日頃の生活や趣味、各単組OB会の活動状況など酒を酌み交わしながら親交を深めた。

